

令和4年度所蔵品による企画展「川合玉堂とゆかりの画家たち」

出品目録

令和4年6月4日（土）～6月26日（日）

No.	作者	作品名	制作年	西暦	材質技法形状	法量	備考	所蔵者
1	川合玉堂	写生帖	昭和30年頃	1955頃	紙本冊子	14.2×18.7	昭和51年10月26日寄贈。	
2		玉堂の自画像	昭和28年	1953	紙本墨画軸装	22.1×27.5	平成17年1月寄託。	
3		水墨山水図	大正中期	1919頃	紙本墨画軸装	37.0×49.0	寄託品。市指定文化財第268号。	八剣神社
4		八剣神社（揮毫）	昭和28年頃	1953頃	紙本墨書額装	50.0×29.0	寄託品。市指定文化財第263号。	八剣神社
5		鶺鴒	昭和29年	1954	紙本彩色軸装	46.2×58.8	平成17年3月15日購入。	
6		鶺鴒	昭和17年	1942	紙本彩色軸装	33.0×24.0	平成12年度購入。	
7		鶺鴒	制作年不詳		紙本彩色軸装	41.9×57.8	平成30年4月13日寄託。	個人蔵
8		鮎釣	昭和30年	1955	紙本彩色額装	46.0×59.0	平成17年3月寄託。	個人蔵
9		跳鯉	大正4年	1915	絹本墨画淡彩軸装	70.3×67.0	寄贈。市指定文化財第224号。	
10		小春日	大正10年頃	1921頃	絹本彩色軸装	68.2×27.4	平成12年2月1日購入。	
11		四季 春耕	大正10年頃	1921頃	紙本淡彩軸装	132.5×31.0	平成30年10月16日寄贈。	
12		四季 晚涼	大正10年頃	1921頃	紙本淡彩軸装	132.5×31.0	平成30年10月16日寄贈。	
13		四季 秋晴	大正10年頃	1921頃	紙本淡彩軸装	132.5×31.0	平成30年10月16日寄贈。	
14		四季 雪渡	大正10年頃	1921頃	紙本淡彩軸装	132.5×31.0	平成30年10月16日寄贈。	
15		竹溪浅春	昭和2年	1927	絹本彩色軸装	134.5×41.8	平成17年度寄託。	個人蔵
16		松溪夕靄	明治35年頃	1902頃	絹本彩色軸装	126.3×56.3	平成22年12月27日寄贈。	
17		奔瀑遊猿図	明治30年	1897	絹本彩色軸装	133.6×55.7	平成12年10月31日購入。	
18		「団扇」画賛	昭和28年頃	1953頃	紙本彩色軸装	27.0×23.8	平成15年6月10日購入。	
19		「炉端」玉堂吉右衛門合作	昭和24年頃	1949頃	紙本淡彩軸装	27.0×24.0	平成19年1月17日購入。	
20		書簡二月二十六日（八剣神社揮毫）	昭和28年	1953	紙本墨書卷子装	19.0×81.0	寄託品。市指定文化財第264号。	八剣神社
21		書簡六月十一日（水墨山水）	昭和28年	1953	紙本墨書卷子装	19.0×110.0	寄託品。市指定文化財第265号。	八剣神社
22		書簡十月九日（扁額写真礼状）	昭和28年	1953	紙本墨書卷子装	19.0×71.0	寄託品。市指定文化財第266号。	八剣神社
23		書簡正月七日（正月祈念礼状）	昭和30年頃	1955頃	紙本墨書卷子装	20.0×63.0	寄託品。市指定文化財第267号。	八剣神社
24		書簡 雄山瑞倫宛	明治45年（1912）5月13日消印		紙本墨書		寄贈。	
25		書簡 山田又市宛	昭和26年（1951）3月18日消印		紙本墨書		令和2年9月1日寄贈。	
26	幸野樸嶺	紫宸殿	制作年不詳		絹本着色軸装	115.2×41.1	令和3年度寄贈。	
27	佐々木尚文	朝顔	昭和初期		紙本淡彩軸装	133.2×32.5	平成5年7月9日寄贈。	
28	佐々木尚文	遠山之雪	昭和初期		紙本淡彩軸装	129.3×29.2	平成5年7月9日寄贈。	
29	喜多村麦子	丘に咲く桜	制作年不詳		紙本淡彩軸装	39.0×50.5	令和元年度寄贈。	

一宮市博物館

〒491-0922 一宮市大和町妙興寺2390 TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216

開催にあたって

日本画家・川合玉堂は、明治6年(1873)に現在一宮市立玉堂記念木曾川図書館が建つ場所に生まれました。幼い頃から絵を好んだ玉堂は、明治20年(1887)に14歳で京都の望月玉泉に入門し、年に数回岐阜と京都を往復して絵を学ぶようになります。明治23年(1890)には、第3回内国勸業博覧会で入選を果たし、本格的に画家となる決意を固めて、玉泉の許しを得て幸野樸嶺の画塾・大成義会に入門しました。樸嶺の死後、玉堂は新たな師を求めて東京へと移り住み、23歳で狩野派の橋本雅邦に師事します。やがて日本の伝統画法に基づいた独自の画風を極め、明治・大正・昭和の長きにわたって活躍し、近代日本画の巨匠と称されています。

当館では、郷土の画家として、川合玉堂の作品を収集しています。今回の展覧会では、当館の収蔵品から、玉堂作品を展示するとともに、玉堂の師・幸野樸嶺や玉堂に学んだ佐々木尚文、玉堂の生誕地碑建立に尽力した喜多村麦子といったゆかりの画家の作品を紹介します。幸野樸嶺・喜多村麦子の作品は近年のご寄贈によるもので、今回が初展示になります。

本展の開催にあたり、貴重な作品を当館にご寄贈賜りました方々をはじめ、ご協力いただきました関係各位に対し、衷心よりお礼申し上げます。

令和4年6月

一宮市博物館

幸野 樸嶺 (こうの ばいれい) 1844~1895

京都出身。嘉永5年(1852)に9歳で円山派の中島来章に入門、一旦独立した後、明治4年(1871)に四条派の塩川文麟に入門した。また、前田暢堂や中西耕石らに南画の筆法を学び、慶応3年(1867)から明治3年(1870)まで神山鳳陽について漢学を修めた。京都府画学校設立に尽力し、また私塾と大成義会を通して竹内栖鳳・都路華香・谷口香嶠・菊池芳文や上村松園、川合玉堂、川北霞峰らを輩出した。明治26年(1893)帝室技芸員。

佐々木 尚文 (ささき しょうぶん) 1890~1970

岐阜県揖斐郡大野町出身。多治見で陶磁器の絵付けをする画工として働いていたが、玉堂を幼少期から知る岐阜市誓願寺住職・雄山瑞倫の紹介で玉堂に入門。人物画を得意とし、文展・帝展で活躍した。1945年に長野市に疎開、以後中央展には出品しなかった。

喜多村 麦子 (きたむら ばくし) 1899~1986

名古屋市西区に生まれる。名古屋の森村宜稲が主宰する稲香画塾に入り日本画の手ほどきを受ける。大正9年(1920)京都市立絵画専門学校別科に入学。画家を支援していた一宮の野村一志の紹介により土田麦僊門下生となり、のち福田平八郎に師事。国画創作協会の影響を受けた写実的でローマン的な作品を描く。

戦災で名古屋市から木曾川町(現・一宮市)に転居し、以後40年間同所で制作活動し、死去。木曾川町に移住後は、川合玉堂の生誕地を命日などに訪れ、生誕地碑の建立に尽力した。